

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	アミーユ豊中利倉
(ユニット名)	アイリス
所在地 (県・市町村名)	大阪府豊中市利倉西2丁目1-1
記入者名 (管理者)	静間 和子
記入日	平成 20年 3月 10日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社内マニュアルにも地域との関わりについての重要性は掲載しているが事業所独自の理念を作り上げ掲示等はできていない。	○ 外部から来られた方が見やすい場所に施設独自のわかりやすい理念を掲示していく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社式・新人導入研修の際に、新人教育マニュアルというテキストを配布し、社の研修担当者及び重役より、テキスト内に記載している社の運営方針・職員の行動理念・行動規範の他、事業目的等の説明を行い具体化している。	○ 入社式・新人導入研修の際に、新人教育マニュアルというテキストを配布し、社の研修担当者及び重役より、テキスト内に記載している社の運営方針・職員の行動理念・行動規範の他、事業目的等の説明を行い具体化している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2ヶ月に1度推進会議を開催し、地域の住民自治会長や民生委員を構成員とし、事業所の情報をその都度提供し、理念についても理念について説明をおこなっている。	○ 2ヶ月に1度推進会議を開催し、地域の住民自治会長や民生委員を構成員とし、事業所の情報をその都度提供し、理念についても理念について説明をおこなっている。今後も継続して様々なテーマや情報を発信できる有意義な会となるように努めたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設の前を散歩コースにされている近所の方や、入居者と施設近隣を散歩中に会った近所の方には、こちらから挨拶をし日常的なおつきあいができるように努めている。近隣の方からパンフレットがほしいとおっしゃりお渡しした事がある。また子供110番の家の登録をし地域に根付いた施設であるよう勤めている。しかし施設内の行事に積極的な案内などはできていない。	○ 施設内の行事について、近隣の方々が参加して頂ける様な取り組みをおこなっていききたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方との交流、施設への理解を深めていただけるよう、美化運動・盆踊り・餅つき大会等の地域の行事や活動に入居者と職員が一緒に参加をしている。	○ 近隣の方との交流、施設への理解を深めていただけるよう、美化運動・盆踊り・餅つき大会等の地域の行事や活動に入居者と職員が一緒に参加をしている。今後も積極的に自治会の活動には参加していききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	豊中市の災害時における二次的避難場所として事業所を提供場所として登録をしている。また豊中市の他アミューとともに豊中市市民サポーターステーション設置にむけ積極的に普通救命講習を受講し、安心して暮らせるまちづくりに貢献できる様努めている。管理者は定期的に市で実施される地域密着型サービス部会への積極的に参加し、地域との連携についてその都度施設の職員へ情報を伝えている。		豊中市の災害時における二次的避難場所として事業所を提供場所として登録をしている。また豊中市の他アミューとともに豊中市市民サポーターステーション設置にむけ積極的に普通救命講習を受講し、安心して暮らせるまちづくりに貢献できる様努めている。管理者は定期的に市で実施される地域密着型サービス部会への積極的に参加し、地域との連携についてその都度施設の職員へ情報を伝えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	客観的に第三者から評価をしていただくことで、改めて自己を知る事ができる大変意義のあるものであると認識をしている。また自己評価は主体的にサービスの評価を行い、提供状況を見直すことによってサービスの質の向上を図ることにつながるという意義を理解し、改善点については、真摯に受け止め改善に努めている。	○	管理者が自己評価をする際は、ケアリーダーや他職員の声や意見も反映させ共に作っていくという捉え方をすることでそれが「気づき」につながるように、自己評価の意義を再認識し施設全体で考えて作成していきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度推進会議を開催し、現状実施しているサービス内容や入居状況・行事等の説明を行い、積極的にご家族や入居者の方の意見や要望を聞きだすよう努めている。会議終了後はユニットリーダーや担当のスーパーバイザーといただいたご意見をまとめ、ユニットのカンファにて改善事項を話し合い、サービスの向上に活かしている。	○	2ヶ月に1度推進会議を開催し、現状実施しているサービス内容や入居状況・行事等の説明を行い、積極的にご家族や入居者の方の意見や要望を聞きだすよう努めている。会議終了後はユニットリーダーや担当のスーパーバイザーといただいたご意見をまとめ、ユニットのカンファにて改善事項を話し合い、サービスの向上に活かしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する地域密着型サービス部会や入所部会・市が主催する研修等には積極的に参加をし、事業所係りとの密な連携に努め共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	市との連携を更に深め、積極的に参加をしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は管理者研修等にて各種の擁護事業や成年後見人制度について研修を受け、情報を施設の職員へ通達している。必要性のある方に情報を伝え、市の担当の方に来ていただき説明をしていただいたこともある。		管理者は管理者研修等にて各種の擁護事業や成年後見人制度について研修を受け、情報を施設の職員へ通達している。必要性のある方に情報を伝え、市の担当の方に来ていただき説明をしていただいたこともある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月職員が受ける研修(管理者が講師を勤める)のテーマに高齢者虐待についてとりあげ受講済である。マニュアルを各ユニットに配布し周知徹底して防止に努めている。		毎月職員が受ける研修(管理者が講師を勤める)のテーマに高齢者虐待についてとりあげ受講済である。マニュアルを各ユニットに配布し周知徹底して防止に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には障害をもたれる前、障害をもたれてからの情報を収集し、本人・家族の意向を伺った上で入居の契約を行っている。入居契約書、重要事項説明書に利用料金をわかりやすく記載し口頭でも詳しく説明を行っている。退去は契約に基づいて決定経過が明確となるよう配慮している。	入居契約時には障害をもたれる前、障害をもたれてからの情報を収集し、本人・家族の意向を伺った上で入居の契約を行っている。入居契約書、重要事項説明書に利用料金をわかりやすく記載し口頭でも詳しく説明を行っている。退去は契約に基づいて決定経過が明確となるよう配慮している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口や対応方法について職員に周知徹底させている。また重要事項説明書に苦情処理窓口として管理者氏名を明記している。職員が直接入居者から苦情を聞き取った場合は、速やかに報告をうけ、状況の確認や聞き取りを行っている。聴衆した意見や要望については、些細な事でもご意見ご要望カードに記入し提出を行っている。苦情対応の結果については、職員にケア会議等で経緯の説明を行い今後のサービス提供に反映させている。	苦情対応窓口や対応方法について職員に周知徹底させている。また重要事項説明書に苦情処理窓口として管理者氏名を明記している。職員が直接入居者から苦情を聞き取った場合は、速やかに報告をうけ、状況の確認や聞き取りを行っている。聴衆した意見や要望については、些細な事でもご意見ご要望カードに記入し提出を行っている。苦情対応の結果については、職員にケア会議等で経緯の説明を行い今後のサービス提供に反映させている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	アミーユ家族の広場という月刊誌を発行し、毎月手書きのお手紙を添えて郵送している。行事等で撮った写真を同封したり面会時直接お渡しし、日頃の様子がわかりやすく伝わるように配慮している。健康状態については高齢者ということもあり体調不良時は速やかにご家族へ電話にて連絡をおこなっている。職員の異動については、施設に掲示をおこなったり推進会議でお伝えしている。	アミーユ家族の広場という月刊誌を発行し、毎月手書きのお手紙を添えて郵送している。行事等で撮った写真を同封したり面会時直接お渡しし、日頃の様子がわかりやすく伝わるように配慮している。健康状態については高齢者ということもあり体調不良時は速やかにご家族へ電話にて連絡をおこなっている。職員の異動については、施設に掲示をおこなったり推進会議でお伝えしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口や対応方法について職員に周知徹底させている。また重要事項説明書に苦情処理窓口として管理者氏名を明記している。職員が直接ご家族から苦情を聞き取った場合は、速やかに報告をうけ、状況の確認や聞き取りを行っている。聴衆した意見や要望については、些細な事でもご意見ご要望カードに記入し提出を行っている。苦情対応の結果については、職員にケア会議等で経緯の説明を行い今後のサービス提供に反映させている。	苦情対応窓口や対応方法について職員に周知徹底させている。また重要事項説明書に苦情処理窓口として管理者氏名を明記している。職員が直接ご家族から苦情を聞き取った場合は、速やかに報告をうけ、状況の確認や聞き取りを行っている。聴衆した意見や要望については、些細な事でもご意見ご要望カードに記入し提出を行っている。苦情対応の結果については、職員にケア会議等で経緯の説明を行い今後のサービス提供に反映させている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に管理者は職員の声に耳を傾ける姿勢で、必要に応じて面談を行い意見を聞いている週1回実施しているカンファレンスなどで意見もリーダーから聞き取り、現場の声を反映している。また「なんでもコール」というフリーダイヤルがあり、社員が相談や意見を直接本社窓口伝える事が出来るシステムをとっている。	○ 今後も継続して職員一人ひとりの意見や提案に耳を傾ける姿勢を忘れず関わっていくように努めたい。定期的にスケジュールを調整し意見を聞く時間を増やしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ユニットごとに緊急時や急な職員の体調不良による欠勤時などは、お互いに協力をしあい、勤務変更を行って調整をおこなっている。管理者はもちろんのこと、他のユニットの職員とも連携をとり柔軟に対応できるよう努めている。	ユニットごとに緊急時や急な職員の体調不良による欠勤時などは、お互いに協力をしあい、勤務変更を行って調整をおこなっている。管理者はもちろんのこと、他のユニットの職員とも連携をとり柔軟に対応できるよう努めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職率を低下させる為に絶えず職員の不満や不調・悩み事がかかえていないか等気にかけて声をかけている。必要に応じて面談を行ったりし、職員も働きやすい環境であるように努めている。馴染みの関係を保守しながら、よりいっそう馴染みの職員との交流が広がるように他のユニットとのつながりも大切にし、行事等で他ユニットの入居者とコミュニケーションをとるなど積極的に行っている。異動等で職員が交代せざるを得ない時は管理者やリーダーが主となり、入居者のダメージが最小限に抑えられるよう努めている。	離職率を低下させる為に絶えず職員の不満や不調・悩み事がかかえていないか等気にかけて声をかけている。必要に応じて面談を行ったりし、職員も働きやすい環境であるように努めている。馴染みの関係を保守しながら、よりいっそう馴染みの職員との交流が広がるように他のユニットとのつながりも大切にし、行事等で他ユニットの入居者とコミュニケーションをとるなど積極的に行っている。異動等で職員が交代せざるを得ない時は管理者やリーダーが主となり、入居者のダメージが最小限に抑えられるよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時、新人導入研修を行い1ヶ月、3ヶ月の研修にて入社後の段階に応じたフォローを行っている。また月1回の施設研修を実施し、知識の習得を目指す機軸を設けている。毎月施設研修を開催し希望をすれば同グループ内の他施設でも受けることができる体制をとっている。社内に研修担当者があり、勉強会、研修をおこなっている。外部研修は案内をし、参加を促している。ヘルパー2級や介護福祉士など資格取得の補助金制度があり働きながら資格取得希望する者を社として支援している。	○ 職員のタイムリーに必要としていることについて、施設研修を今よりも増やしておこなっていききたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の主催する入所部会に入会しており部会への参加や、また地域密着型サービス部会にも積極的に参加をし、同業者との交流情報を得て自施設に反映するよう努めている。しかし相互訪問はおこなえていない。	○ 他事業所との関わりを深め、事業所の見学等おこなっていききたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常に管理者は職員の声に耳を傾ける姿勢で、必要に応じて面談を行い意見を聞いている。週1回実施しているカンファレンスなどで意見もリーダーから聞き取り、現場の声を反映している。また「なんでもコール」というフリーダイヤルがあり、社員が相談や意見を直接本社窓口伝える事が出来るシステムをとっている。同グループ内で定期的にボウリング大会等を主催し職員同士の交流の機会をあたえている。	○ 今後も継続して職員一人ひとりの意見や提案に耳を傾ける姿勢を忘れず関わっていくように努めたい。定期的にスケジュールを調整し意見を聞く時間を増やしていききたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回昇級試験を実施し、日頃の勤務態度や理念の理解、研修の参加率、勤務調整の協力度などを考慮し昇給結果を伝える面談をおし、職員一人ひとりが目標を持ってスキルアップできるように助言を行い、評価すべき点はしっかりと評価を行っている。	年2回昇級試験を実施し、日頃の勤務態度や理念の理解、研修の参加率、勤務調整の協力度などを考慮し昇給結果を伝える面談をおし、職員一人ひとりが目標を持ってスキルアップできるように助言を行い、評価すべき点はしっかりと評価を行っている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に対してどのように思われているか、本人が現在何に困っているのかを入居時には必ずご自身から聞き取りを行っている。ご自分で伝える事が困難な方については、ご家族や入居まで関わってきたサービス、ケアマネジャー、医療機関からの情報を収集し、障害を持たれる前の生活の再現を目標とし具体的に要望が反映できるよう具体的にサービス内容を提示している。実際に入居されてからは、特に配慮し細かい部分でも聞き取りを行い安心して生活を送って頂く為に要望を聞きだすよう配慮している。	入居に対してどのように思われているか、本人が現在何に困っているのかを入居時には必ずご自身から聞き取りを行っている。ご自分で伝える事が困難な方については、ご家族や入居まで関わってきたサービス、ケアマネジャー、医療機関からの情報を収集し、障害を持たれる前の生活の再現を目標とし具体的に要望が反映できるよう具体的にサービス内容を提示している。実際に入居されてからは、特に配慮し細かい部分でも聞き取りを行い安心して生活を送って頂く為に要望を聞きだすよう配慮している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談があった際は、ご家族が一番困っていらっしゃることや負担に感じていらっしゃる事について、じっくりと話を聞き、親身になって相談に応じている。入居されてからも本人の状態については些細な事でも、報告を行い不安を少しでもとりのぞいていただけるよう配慮している。	入居の相談があった際は、ご家族が一番困っていらっしゃることや負担に感じていらっしゃる事について、じっくりと話を聞き、親身になって相談に応じている。入居されてからも本人の状態については些細な事でも、報告を行い不安を少しでもとりのぞいていただけるよう配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があった際は、ご家族・本人の双方の立場から現在困っている事を具体的に聞着だすよう努めている。また相談者がケアマネや医療関係者であれば、専門的見地から意見を求めたりして対応している。		入居の相談があった際は、ご家族・本人の双方の立場から現在困っている事を具体的に聞着だすよう努めている。また相談者がケアマネや医療関係者であれば、専門的見地から意見を求めたりして対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には管理者が必ず本人と面談をし、可能であれば本人に見学に来ていただき実際の様子を把握していただく様働きかけている。その際には職員も無理のない程度にはなしをさせていただき少しでも馴染みの関係が築けるよう努めている。施設の入居については本人が納得していただくよう十分な説明をしていただくようにご家族に協力を依頼している。入居後は頻りに面会に来ていただくようということをお願いしている。		入居前には管理者が必ず本人と面談をし、可能であれば本人に見学に来ていただき実際の様子を把握していただく様働きかけている。その際には職員も無理のない程度にはなしをさせていただき少しでも馴染みの関係が築けるよう努めている。施設の入居については本人が納得していただくよう十分な説明をしていただくようにご家族に協力を依頼している。入居後は頻りに面会に来ていただくようということをお願いしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションについては、全ての職員が技術を会得できるよう研修テキストが準備されており、コミュニケーション技法の研修を開催し、指導を行っている。日常の生活にそれをいかし入居者一人ひとりに敬意をもった態度で接し信頼関係が築けるように努めている。		コミュニケーションについては、全ての職員が技術を会得できるよう研修テキストが準備されており、コミュニケーション技法の研修を開催し、指導を行っている。日常の生活にそれをいかし入居者一人ひとりに敬意をもった態度で接し信頼関係が築けるように努めている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人様の様子についてお手紙をだし、情報を伝えている。また問題が怒った際はその都度連絡を取り、ご家族の要望も聞きながら共に本人様をサポートしていく事ができる様に努めている。		お仕事でお忙しいご家族様については、電話番号以外にメールアドレスを聞いておき、緊急性がない情報については負担のない形でお伝えするなど、配慮をしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居されてからも、ご家族との関係がとぎれることがないよう、面会時には歓迎し、必ず介護記録をお見せし日々の状態を把握していただいている。また些細な事でも日常の本人の状態については、対応した職員が口頭で伝えていくことで家族様とのコミュニケーションにも努めている。		わくわく家族ツアーという旅行を企画し、その情報を毎月ご家族と入居者にお伝えしお好きな旅行や企画に参加して頂いている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も馴染みの関係が継続できるように、面会時にはお茶をお出しし歓迎している。馴染みのある場所についても、ご家族に依頼をし、行き来ができるようにアプローチを行っている。		希望されている方には生まれ育った故郷や親戚の家や自宅へ年に1回でも外出ができるように、積極的にご家族に協力を依頼をしてお盆やお正月に外泊をされる方がいらっしゃる。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ユニットのたでのつながりも利用し、他のユニットの入居者との馴染みの関係が構築できるような援助を行っている。		個別に介護スケジュールにいれ、実際に他の階に毎日行かれ、気の合う入居者との談話を楽しんで3いらっしゃる入居者がいらっしゃる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて、サービス提供が終了しても、電話や直接施設に来訪されたりするご家族については、親身になって相談を受ける姿勢をとっている。退去されてもご家族が来訪して下さる事もあるが退去されてからの年月が経つにつれて薄れていってしまう現状がある。	○	必要に応じて、サービス提供が終了しても、電話や直接施設に来訪されたりするご家族については、親身になって相談を受ける姿勢を今後も継続したい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りが困難な際は、ご家族や医療機関・利用されていたサービス機関等本人をとりまく関係者からの情報収集に努めている。		本人からの聞き取りが困難な際は、ご家族や医療機関・利用されていたサービス機関等本人をとりまく関係者からの情報収集に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に使われていたサービスや生活歴・障害を持たれる前の生活・家庭環境など多岐にわたり情報を収集し入居されてからの介護計画作成に反映している。		入居前に使われていたサービスや生活歴・障害を持たれる前の生活・家庭環境など多岐にわたり情報を収集し入居されてからの介護計画作成に反映している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎週1回リーダーミーティングを開催し、ユニットでの入居者の健康状態やケアの変更等聞き取りをおこなっている。また施設に出勤する日は必ずユニットに行き入居者の状態を記録や本人を観察し状態について把握するように努めている。		毎週1回リーダーミーティングを開催し、ユニットでの入居者の健康状態やケアの変更等聞き取りをおこなっている。また施設に出勤する日は必ずユニットに行き入居者の状態を記録や本人を観察し状態について把握するように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者はケアプランと毎日の介護記録を基に提供したサービス内容を確認し、より充実したものとなるように、ケアアドバイザーとして、ケア方法のアドバイスを行ったり、ケア会議に出席し意見交換の場としている。		管理者はケアプランと毎日の介護記録を基に提供したサービス内容を確認し、より充実したものとなるように、ケアアドバイザーとして、ケア方法のアドバイスを行ったり、ケア会議に出席し意見交換の場としている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低月1回の見直しを行っている。状態の変化などがある方についてはその都度見直し、内容についてははご本人、ご家族に説明を行っている。		最低月1回の見直しを行っている。状態の変化などがある方についてはその都度見直し、内容についてははご本人、ご家族に説明を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日行った援助を介護記録に記入し、入居者の状態や発言・体調についてなど些細なことも記録に残すように指導している。週1回のケア会議では、介護計画の見直し含め内容について検討しその場で話し合った内容が計画に反映される仕組みをとっている。	○	記録の記入方法等も、職員の主観が入らぬよう細かい部分の指導をしていく必要を感じている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態の変化や要望により法人内での転居や情報の共有化などについては連携をとりあっているが、外部サービスの利用などは積極的には行っていない。	○	本人の希望に添った外部のサービス等も積極的に活用していく
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	個別性を尊重し、本人の希望に添ったボランティアの受け入れを行っている。	○	パンがお好きな方が多く、頻繁に買いにいけないというご希望があった為、現在週に1回社会福祉法人の訪問パン販売をいらしている。また歌がお好きな方のために音大の音楽療法を勉強されている学生さんによる楽器演奏や歌の合唱ボランティアを月1回
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のネットワークを活用し、ボランティアの受け入れや訪問理容サービスを活用したりしているが他事業所との連携はなかなか取れていないのが現状である。	○	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との連携は年に数回の入所部会などでしか、関わりが取れていない為今後は他サービス事業者との関わりを意図的に行なっていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の必要性に応じて、権利擁護や総合的な相談にはのっているが、地域包括支援センターと協議は行っていない。推進会議の構成員として、推進会議には出席していただき、情報をいただいたり、施設の状況を報告したりすることで協働していると捉えている。	○	本人の必要性に応じて、権利擁護や総合的な相談にはのっているが、地域包括支援センターと協議は行っていない。推進会議の構成員として、推進会議には出席していただき、情報をいただいたり、施設の状況を報告したりすることで協働していると捉えている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を入居契約時にお聞きし、納得が得られたかかりつけ医と連携をとり、必要に応じて受診や往診を依頼している。		入居前からかかりつけ医が決まっており、施設に入居しても継続して同じ先生に主治医となってほしいというご希望の方は先生に交渉をし、現在も往診に来て頂いている、



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>専門病院が施設の協力医療機関となっている。毎月往診に来て頂いている。必要に応じて受診をおこない、認知症に関して適切な検査等をおこなっていただいている。現在も精神科からの往診を依頼して</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>施設に看護師は在中していないが、緊急の際は近隣の同グループの施設から看護師がかけつけ対応することもある。体調の変化がみられた際は24時間連絡がとれるように主治医と連携体制を整えている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>お見舞いに行った際はできるだけ主治医から話が聞けるように事前に連絡を入れてから伺うように努めている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>入居時に治療方法についての要望書をお渡しし、現在のお気持ちや意志をお聞きしている。入居後本人の状態が変化したり体調不良の際はその都度、今後については具体的に方針や思いをお聞きして情報を共有している。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>重度化した場合における対応の指針にもとづき、ご家族や主治医と話し合いをおこない、具体的に施設で対応できること・できなきことを明確にして伝えている。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>同法人には有料老人ホームや高齢者専用賃貸住宅等も多数ある為、退去時には必要に応じて情報を伝え選択肢を広げる事ができるようなアプローチも合わせて行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の守るべき行動規範にも秘密保持の項目を入れ、特に重要視すべき事柄として職員に周知徹底させている。また個人情報取り扱いについてのマニュアルがあり、また研修やミーティングで人権やプライバシーの保護についても指導を行っている。	職員の守るべき行動規範にも秘密保持の項目を入れ、特に重要視すべき事柄として職員に周知徹底させている。また個人情報取り扱いについてのマニュアルがあり、また研修やミーティングで人権やプライバシーの保護についても指導を行っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表すことを尊重し、それを促す取り組みを日常定期におこなっている。それが個別の援助であれば、ケアプランに記載しスケジュール化している。	毎日10時と15時のお茶の時間にその時飲みたい物を選んでいただくようにしている。毎日の衣類の選択や食事をとる場所などもその都度希望を伺っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個人のプランを基に、業務スケジュールを決定している。入居者の入れ替わりや状態の変化があった場合は、それに合わせて業務の見直しを行い、入居者のペースで生活を送っていただけるよう努めている。	入居者個人のプランを基に、業務スケジュールを決定している。入居者の入れ替わりや状態の変化があった場合は、それに合わせて業務の見直しを行い、入居者のペースで生活を送っていただけるよう努めている。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日更衣の際自分で服を選んでいただいている。自分で選べない方は職員と一緒に何点かの中から選んでもらう様配慮し、援助方法はケアプランに記載している。近隣の理美容の中から好きな店を選んでもらい利用していただいている。外出が困難な方は訪問理美容の業者を利用していただいている。	毎日更衣の際自分で服を選んでいただいている。自分で選べない方は職員と一緒に何点かの中から選んでもらう様配慮し、援助方法はケアプランに記載している。近隣の理美容の中から好きな店を選んでもらい利用していただいている。外出が困難な方は訪問理美容の業者を利用していただいている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事についての要望は、給食会社のアンケートに記入し反映させている。食材の買い物や食事作りに対する要望があればケアプランに記載しアクティビティとして取り組みを行っている。食器洗いやお盆拭きなどケアプランに記載し役割を持っていただくことも目的としている。食事時間は個別に設定されており、お好きな時間に食べていただいている。また職員と一緒に食事を摂る事によって、慌しく動き回る事のないように心がけている。	食事についての要望は、給食会社のアンケートに記入し反映させている。食材の買い物や食事作りに対する要望があればケアプランに記載しアクティビティとして取り組みを行っている。食器洗いやお盆拭きなどケアプランに記載し役割を持っていただくことも目的としている。食事時間は個別に設定されており、お好きな時間に食べていただいている。また職員と一緒に食事を摂る事によって、慌しく動き回る事のないように心がけている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	夕食後晩酌をされる方には、お酒を用意し提供したり、お気に入りのパン屋さんへお連れしたり、喫茶店に行きお茶を飲んだりお一人おひとりの好みや要望をケアプランに記載し援助をしている。	夕食後晩酌をされる方には、お酒を用意し提供したり、お気に入りのパン屋さんへお連れしたり、喫茶店に行きお茶を飲んだりお一人おひとりの好みや要望をケアプランに記載し援助をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿チャートを利用し、一人ひとりの排尿状態を把握している。失禁に対するアセスメントを行いオムツの種類や使用方法を検討した上でケアプランに記載しオムツを使用するようにしている。		排尿チャートを利用し、一人ひとりの排尿状態を把握している。失禁に対するアセスメントを行いオムツの種類や使用方法を検討した上でケアプランに記載しオムツを使用するようにしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望にあわせ(時間帯・長さ・回数等)くつろいだ入浴ができるように支援している。尚入浴回数、方法についてはケアプランに記載し個別の要望に合わせて対応を行なっている。		入居者一人ひとりの希望にあわせ(時間帯・長さ・回数等)くつろいだ入浴ができるように支援している。尚入浴回数、方法についてはケアプランに記載し個別の要望に合わせて対応を行なっている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握している。散歩や買い物などの機会を増やし、1日の生活リズム作りを心がけている。夜間空腹で眠れない方には捕食を提供したり、足浴を行い安眠を促している。		入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握している。散歩や買い物などの機会を増やし、1日の生活リズム作りを心がけている。夜間空腹で眠れない方には捕食を提供したり、足浴を行い安眠を促している。
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	障害をもたれる前の普通の生活を実現して頂く為にも、入居の際には生活歴や障害をもたれる前後の様子について細かく聞き取りを行なっている。どのような援助をおこなえば普通の生活が実現できるのかを明確にしケアプランに記載している。しかし入居されてからの聞き取りについては、積極的におこなう職員とそうでない職員の温度差を感じることもある。	○	障害をもたれる前の普通の生活を実現して頂く為にも、入居の際には生活歴や障害をもたれる前後の様子について細かく聞き取りを行なっている。どのような援助をおこなえば普通の生活が実現できるのかを明確にしケアプランに記載している。しかし入居されてからの聞き取りが、自然に「その方をもっと理解したい」という思いで接することができる
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、ご自分で管理をされている方についてはケアプランに記載し、買い物の際にご自分で支払っていただいている。金銭管理が困難な方については、事前に購入品や目的を伝え立替を行った際は、内訳を領収書に細かく記載し発行している。		金銭管理については、ご自分で管理をされている方についてはケアプランに記載し、買い物の際にご自分で支払っていただいている。金銭管理が困難な方については、事前に購入品や目的を伝え立替を行った際は、内訳を領収書に細かく記載し発行している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高齢者が意欲を持てる最も効果的な援助が外出であると社内マニュアルにも記載されており、散歩は本人の要望に沿ってケアプランにも記載しお連れしている。散歩だけではなく、買い物や喫茶店・飲食店等その都度本人の要望に添えるように心がけている。	○	外出のより希望に添えることができる様に、その希望を少しでも聞きだせる技法を職員へ伝えていくことに努めたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	わくわくツアーという社内の旅行の案内を毎月行い、ご希望のプランに行っていたい。ご家族様にも本人の要望をお伝えし協力をしていただくようアプローチを行っている。日勤者が2名いる日は事前に計画を立てて普段いけな場所などにお連れしたりし、個別の要望に答える事ができるよう勤めている。		わくわくツアーという社内の旅行の案内を毎月行い、ご希望のプランに行っていたい。ご家族様にも本人の要望をお伝えし協力をしていただくようアプローチを行っている。日勤者が2名いる日は事前に計画を立てて普段いけな場所などにお連れしたりし、個別の要望に答える事ができるよう勤めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と毎日電話をされている方には携帯電話をご家族に依頼し、お持ちいただいている。必要に応じてユニットの電話を使用していただいている。手紙は1階のポストに届く為ご家族から届いたお手紙はタイムリーにお渡しするように努めている。		ご家族と毎日電話をされている方には携帯電話をご家族に依頼し、お持ちいただいている。必要に応じてユニットの電話を使用していただいている。手紙は1階のポストに届く為ご家族から届いたお手紙はタイムリーにお渡しするように努めている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪時には必ずお茶をお出しし歓迎している。面会時間もお好きな時間に来ていただけるようご案内し、泊まれる場合はこちらで用意している寝具を使っている。		来訪時には必ずお茶をお出しし歓迎している。面会時間もお好きな時間に来ていただけるようご案内し、泊まれる場合はこちらで用意している寝具を使っている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定に記載し、入居の際書面にて原則として身体拘束を行わない事を説明している。職員についても研修を受けるなどして指導し、周知徹底させている。身体拘束を行わず、安全の確保が行なえる様、補助具の導入や環境の見直しなどを行うよう指導している。		運営規定に記載し、入居の際書面にて原則として身体拘束を行わない事を説明している。職員についても研修を受けるなどして指導し、周知徹底させている。身体拘束を行わず、安全の確保が行なえる様、補助具の導入や環境の見直しなどを行うよう指導している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体障害、見当識障害が強く一人での外出は危険である方が多いため、ユニットの玄関は施錠させていただいている。外出の希望を見逃さず外出の要望を出来る限り実現できるようプランを立てている。	○	身体障害、見当識障害が強く一人での外出は危険である方が多いため、ユニットの玄関は施錠させていただいている。外出の希望を見逃さず外出の要望を出来る限り実現できるようプランを立てている。ここから出られない・閉じ込められているという感覚を与える事がないように玄関の施錠については推進会議等で議題として提案し検討していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自然な見守りができるよう配慮しながら、所在や様子を把握するように努めている。日頃のその方の表現方法を把握し、いつもと違う状態ががみられた場合スタッフ同士で情報を共有している。		自然な見守りができるよう配慮しながら、所在や様子を把握するように努めている。日頃のその方の表現方法を把握し、いつもと違う状態ががみられた場合スタッフ同士で情報を共有している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その方の常態に応じて必要な際には適切に使用していただくが、薬や洗剤、刃物などの注意の必要な物品については、鍵のかかる場所に保管するなど管理方法についても職員に周知徹底させている。		その方の常態に応じて必要な際には適切に使用していただくが、薬や洗剤、刃物などの注意の必要な物品については、鍵のかかる場所に保管するなど管理方法についても職員に周知徹底させている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急対応マニュアルを作成し、全職員に研修などで指導を行い周知徹底を図っている。個別に予測されるリスクについてはケアプランに記載し、ご家族に説明をおこなっている。サービス提供中に幸いにも事故に至らなかったがヒヤッとした事柄については職員間で申し送り注意をよびかけ、ヒヤリハットについて記録をとっている。		緊急対応マニュアルを作成し、全職員に研修などで指導を行い周知徹底を図っている。個別に予測されるリスクについてはケアプランに記載し、ご家族に説明をおこなっている。サービス提供中に幸いにも事故に至らなかったがヒヤッとした事柄については職員間で申し送り注意をよびかけ、ヒヤリハットについて記録をとっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成し、全職員に研修などで指導を行い周知徹底を図っている。年2回市民ステーションサポーター講習を管轄の消防署に依頼し参加を促している。		緊急対応マニュアルを作成し、全職員に研修などで指導を行い周知徹底を図っている。年2回市民ステーションサポーター講習を管轄の消防署に依頼し参加を促している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を実施し避難経路の確認、自力避難困難者の避難方法について確認を行っている。施設内の緊急連絡網を作成し掲示等しているが、地域の人々の協力がえられよう働きかけは具体的にはおこなえていない。	○	地域で行う訓練等にも積極的に参加をしていきたい。推進会議で議題としてとりあげ日頃から地域の人々の協力が得られるよう働きかけを行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの生活目標プランの現在できる事の欄に予測されるリスクについては記載を行っている。自由度を優先することでおこりうる危険性については個別に説明を行っている。		ケアプランの生活目標プランの現在できる事の欄に予測されるリスクについては記載を行っている。自由度を優先することでおこりうる危険性については個別に説明を行っている。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の入居者の状態を把握し、いつもと違う状態を職員がみのがさず適切に申し送りができるよう周知徹底させている。言動については詳細に記録に残すようにも通達をしている。職員の中には観察力がとぼしくその方の通常の状態が把握できていない職員もいる。(現象が見れない)		体温ひとつにとっても、平熱は一人ひとり違うため平均的な数値にとらわれず、その方の平熱はどのくらいであるかで把握ができる様な職員の育成をしていきたい。(日頃の観察がなによりも大切であることを研修等を通して啓発していきたい)
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	社内マニュアルにも、薬については項目が有り、取り扱いや服薬についての注意事項については周知徹底させている。特に新しい薬を飲み始めた時は、体調の変化に留意するように申し送っている。		社内マニュアルにも、薬については項目が有り、取り扱いや服薬についての注意事項については周知徹底させている。特に新しい薬を飲み始めた時は、体調の変化に留意するように申し送っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘による不快感から、感情が不安定になられることもあると言う事を職員が理解しており、排便のコントロールが必要な方には個別に対応し主治医からの指示に添った服薬等の援助を行っている。必要に応じて水分を多くとっていただいたり、適度な運動を促したりして対応をしている。		便秘による不快感から、感情が不安定になられることもあると言う事を職員が理解しており、排便のコントロールが必要な方には個別に対応し主治医からの指示に添った服薬等の援助を行っている。必要に応じて水分を多くとっていただいたり、適度な運動を促したりして対応をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後その方の能力に応じた口腔ケアの援助をケアプランに記載し、口腔ケアの援助を行っている。口腔ケアを適切に行うことが困難な方には歯科往診を依頼し、口腔ケアを定期的に依頼している。		毎食後その方の能力に応じた口腔ケアの援助をケアプランに記載し、口腔ケアの援助を行っている。口腔ケアを適切に行うことが困難な方には歯科往診を依頼し、口腔ケアを定期的に依頼している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表に1日の摂取カロリーが記載されている。また個別の摂取量を記録し、特に食事量の低下などがみられる方については、より細かい摂取量(水分を含む)の把握に努めるよう心がけているが、入居者全員の方の毎日のチェックはできていない。	○	全員の方の水分量について介護記録に毎日記載するように指導通達をおこなう。特に食事量が低下されている方や脱水等の危険性の高い方など観察が必要な方については必ず記録に残す事を徹底する。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防について入社時や施設研修にて指導を行い、マニュアルを掲示し周知徹底させている。報告が義務付けられている感染症については、管理者から速やかに保健所や当該市への報告をする体制をとっている。		感染症予防について入社時や施設研修にて指導を行い、マニュアルを掲示し周知徹底させている。報告が義務付けられている感染症については、管理者から速やかに保健所や当該市への報告をする体制をとっている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生マニュアルを作成・掲示し職員に周知徹底している。年に1回サニタリーチェック、年に2回の検便の実施に加え、給食会社から定期的に衛生チェックをうけており衛生管理に対する職員の意識の向上に努めている。		衛生マニュアルを作成・掲示し職員に周知徹底している。年に1回サニタリーチェック、年に2回の検便の実施に加え、給食会社から定期的に衛生チェックをうけており衛生管理に対する職員の意識の向上に努めている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設とは感じさせない外装にし、建物の周囲の花壇に草花を植え、家庭的な雰囲気づくりに工夫している。玄関に常に植物を飾り、家庭的な雰囲気を有するように配慮している。		施設とは感じさせない外装にし、建物の周囲の花壇に草花を植え、家庭的な雰囲気づくりに工夫している。玄関に常に植物を飾り、家庭的な雰囲気を有するように配慮している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に置いてある家具は全て木製の物を使用し、玄関やリビングには常に植物を飾り家庭的な雰囲気を有するように配慮している。毎週生花を届けていただき季節を感じて頂ける様な取り組みを行っている。職員の会話やテレビの音、照明などの明るさについてテキストに記載されておりその内容について理解し、入居者が混乱されることなく、落ち着いて過ごせるよう対応している。		共有空間に置いてある家具は全て木製の物を使用し、玄関やリビングには常に植物を飾り家庭的な雰囲気を有するように配慮している。毎週生花を届けていただき季節を感じて頂ける様な取り組みを行っている。職員の会話やテレビの音、照明などの明るさについてテキストに記載されておりその内容について理解し、入居者が混乱されることなく、落ち着いて過ごせるよう対応している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった少人数で過ごせるようにソファやテーブルの配置を工夫している。畳を設置し自由に過ごせる居場所を確保している。		気のあった少人数で過ごせるようにソファやテーブルの配置を工夫している。畳を設置し自由に過ごせる居場所を確保している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使われていた家具などをできるだけ持ち込んでいただくように、お願いをしている。入居後も個人の生活に合わせて必要な家具を追加で持ち込んで頂いたり、写真を飾っていただいている。		入居前に使われていた家具などをできるだけ持ち込んでいただくように、お願いをしている。入居後も個人の生活に合わせて必要な家具を追加で持ち込んで頂いたり、写真を飾っていただいている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日3回(1回5分以上)の換気を行っている。また、床上40cm・150cmの2箇所温度計を設置し温度差を確認し、室温管理を行なっている。介護日誌にも記入を行っている。		1日3回(1回5分以上)の換気を行っている。また、床上40cm・150cmの2箇所温度計を設置し温度差を確認し、室温管理を行なっている。介護日誌にも記入を行っている。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の能力に応じ必要であれば、入居者やご家族と相談の上、手すりの追加設置などの対応を行なっている。		その方の能力に応じ必要であれば、入居者やご家族と相談の上、手すりの追加設置などの対応を行なっている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人ひとりがユニット内の場所がわかるかを把握しており、場所の間違いやわからないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。例えば、トイレの場所を認識して頂く為、紙で「おちょうず」「おてあらい」と書いて貼ったりして工夫をしている。		入居者一人ひとりがユニット内の場所がわかるかを把握しており、場所の間違いやわからないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。例えば、トイレの場所を認識して頂く為、紙で「おちょうず」「おてあらい」と書いて貼ったりして工夫をしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには物干し竿があり、ご自分で洗濯物を干される方がいらっしゃる。また鉢花に水やりをしたり、植え替えを手伝ってくださる方もいる。		ベランダには物干し竿があり、ご自分で洗濯物を干される方がいらっしゃる。また鉢花に水やりをしたり、植え替えを手伝ってくださる方もいる。

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームが地域密着型サービスに移行し、地域との多方面での関わりを、どのように広げていくかということに焦点をあて、様々な外部との関わりを検討してきた。例えば子供110番の家として登録をし、地域の根ざした施設である事を近隣の方に知っていただく。障害をもっても住み慣れた地域で生活を送りたいという当たり前の思いをかなえる為に無添加のパンやクッキーを製造販売されている、社会福祉法人「えーぜっとの会」と連携をとり週に1回パンの販売にきていただいている。入居者の方も外部の方と触れ合うよい機会ともなっている。今後はパン作りを作業所の方に教えていただいたり、近隣の方も購入ができるように施設を提供できればと思っている。また推進会議開催の頻度は現時点では豊中市も曖昧で2ヶ月に1回の開催が必須ではないという見解ではあるが利倉は既に9回推進会議を開催いたしており、その都度テーマを決め自治会長を始め地域の方に積極的に参加を頂き地域に根ざした施設をめざして今後も取り組んでいきたいと思っている。